

勝田高校図書館だより

平成30年度 第6号

平成30年9月28日発行



今日で前期が終了します。1年生は、初めての成績（評定）を手にしたところですね。2・3年生は慣れてはいるでしょうが、それでも少し心がざわめくものでしょう。数字には魔力があります。一喜一憂するのではなく、その数字が示す意味を受け止めないと、数字にとらわれ、本当の意味を見失うこともあります。数字から何を受け止めるかは皆さん次第です。

3年生はいよいよセンター試験の出願用紙を提出し、覚悟を新たにしたことでしょう。図書館で勉強する3年生が増えてきました。昼休みや放課後のちょっとした時間に静かに勉強したり本を読みたい人は、気軽に足を運んでくださいね。

2年生は、修学旅行の準備が気になる頃ですね。昨年度の3年生の図書委員が修学旅行のための耳より情報をポスターにまとめてくれました。まもなく昇降口掲示板に掲示します。また、図書館内にも沖縄に関連する図書を展示します。知事選の行方が気になっている人もいますでしょう。基地、戦争の傷跡、食、歴史、自然……11月の旅行を前に、様々な沖縄の姿を知り、自分なりに何かを学び考える手がかりを見つけてもらえれば嬉しく思います。



一雨ごとに気温が下がり、秋の到来を感じます。「秋の夜長」に読んでみたい一冊を探しに図書館に足を向けてみませんか。図書館は、全ての世界に通じる入り口でもあります。難しいことは考えずに、気軽に自分が気になることを調べたり読みたい本を探しに来てください。思いがけない一冊との出会いがあるかも知れません。勿論、ゆっくり一人の時間を持ちたい人も、静かな空間で一休みしたい人も、図書館はいつでも皆さんをお待ちしています。

★9月19日に水戸地区の図書委員研修会がありました。勝田高校は、会場校として研修会を運営し、また分科会（図書館カルタ）も担当しました。活動報告や、共にそれぞれの分科会を担当してくださった当番校の図書委員や、分科会に参加してくださった多くの他校の図書委員の皆さんのおかげで、充実し、また楽しい時間を共有する研修会にすることが出来ました。研修会で学んだことを後期の活動に生かしていきたいと思います。

★10月のカウンター当番は、2年生が担当します。

★新着本コーナーが図書館入り口付近に移動しました。分からない時は、図書委員や司書の先生に気軽に声をかけてくださいね。

★2年生向けの修学旅行情報コーナーも、来月後半から設置したいと思います。お楽しみに！

九月のうた（和歌）

是貞の親王の家の歌合うたあわせによめる みぶのたのみね 壬生忠岑



ひさかた
久方の月の桂は秋はなほもみぢすればや照りまさるらむ

『古今和歌集』巻第四・秋歌上 194)

意味： 是貞の親王の家の歌合に詠んだ歌

月に生えているという桂の木もこの地上のものと同様に、秋になるとやはり紅葉するので、秋の月は他の季節よりも一段と明るく輝いて見えるのだろうか。

「月の桂」とは、中国の古い伝説で、月に生えているという桂の木のことです。月の中に川があり、その川の畔に高さ五百丈（約1500メートル）とも六百丈（約1800メートル）とも言われる桂の木が生えているという伝説に基づいてこの歌は詠まれています。秋の月がこれほど明るく美しいのは、月に生えている桂の木が紅葉し、それが地上にまで映っているのだという想像によって詠まれた、理知的で美しい一首です。この伝説は古くから日本に伝わっていたようで、『万葉集』にも同じく月の世界に桂の木があるということを前提とする歌（もみぢする時になるらし月人の桂の枝の色づく見れば）が収められています。

西洋の「月」が、妖精などこの世に存在しない不思議な存在の登場と重ねられるのに対し、日本では、古来月そのものを眺めて物思いをする文化があるようです。また、上記の歌のように、秋の月の美しさを詠んだ歌も数多くあります。「雪月花」と言われるように、冬の雪・秋の月・春の花と、四季折々の風流な景物の筆頭に挙げられているのは皆さんご存じですね。今でも「中秋の名月（陰暦8月15日の月）」は、その日の天気が話題にもなるほど、日本人にとって秋の月を見上げて愛でることは生活上自然なことです。これは中国の「観月」に由来するものですが、「十三夜（「後の月」とも言います。）」を楽しむのは日本独自の習慣です。日本人は遠く空に輝く月に憧れ、焦がれ、現実の思いを重ねて来たのかも知れません。もっとも『竹取物語』では、かぐや姫は婁に月ばかり眺めているのを不吉なことだとがめられています。日本でも月を眺めることを忌む思想もあったのかも知れません。遠くにあつて、人の心を惹き付ける月には、どこか魅入られてしまいそうな不安が伴ったのかも知れません。月を見て未来に思いを馳せるのも、あるいは「はやぶさ2号」にわくわくするのも、千年前の生活を思うのも、恋しい人や今は会えない友達を思い出すのも、すべて月夜の素敵な時間です。科学でもファンタジーでも古典でも、月の光に照らされてものを思うきっかけとなる書籍はたくさんあります。たまには夜空を見上げながら、心を遊ばせてみませんか。月の光は心を浄化してくれる冷たく清らかな光でもあります。皆さんも、そして月に照らされる全ての人が、心鎮まり、清められ、元気をためていけるよう、この秋の月を眺めながら祈っています。

